

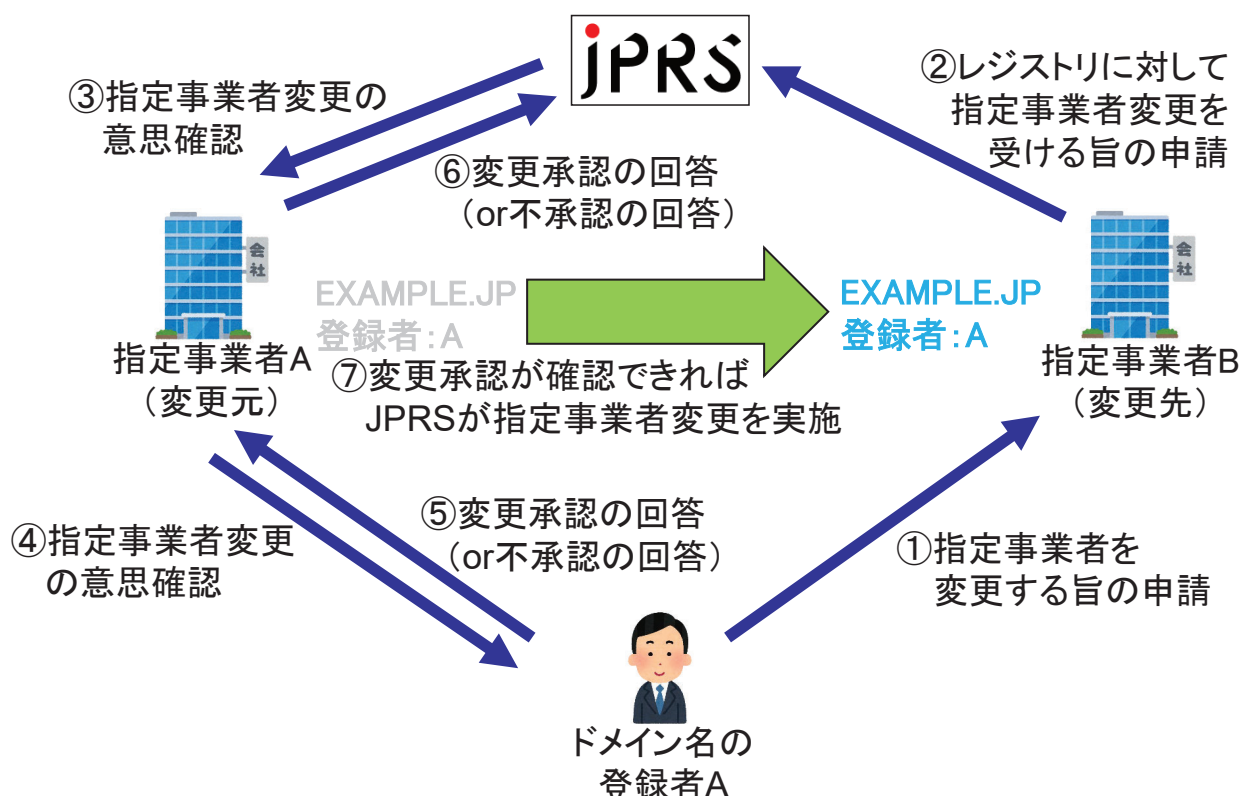
# JPドメイン名における 指定事業者変更・ドメイン名移転手続き の安全性向上のための取り組み

2022年10月6日(木)  
株式会社日本レジストリサービス(JPRS)

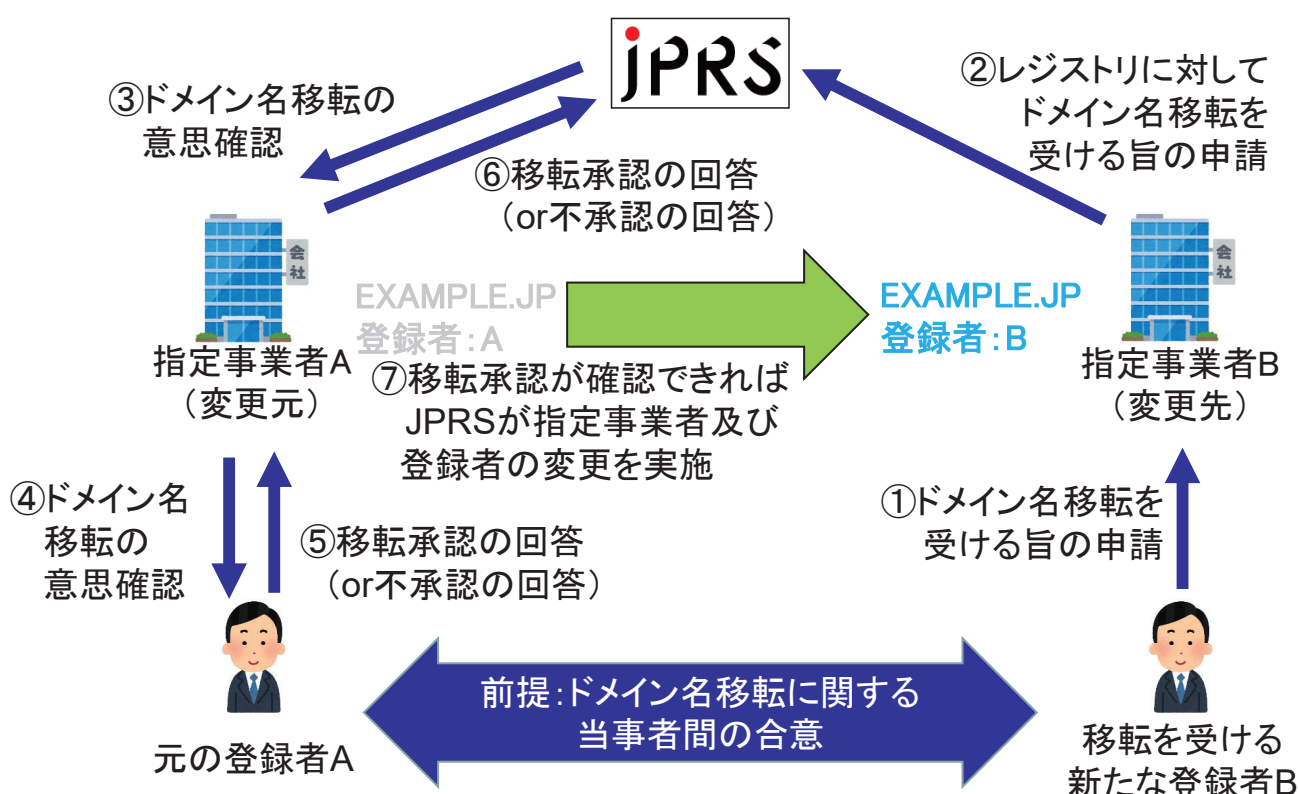
## 手続きの説明

- 指定事業者変更
  - ドメイン名に関する手続きを取り次ぐ管理指定事業者を、別の指定事業者に変更する手続き
  - 登録者の意志で管理指定事業者の変更が可能
- ドメイン名移転
  - ドメイン名の登録者を、別の第三者に変更する手続き
  - 当事者間の合意があればドメイン名移転が可能

# 指定事業者変更の手続き(従来)



# ドメイン名移転の手続き(従来) (指定事業者の変更を伴う場合)



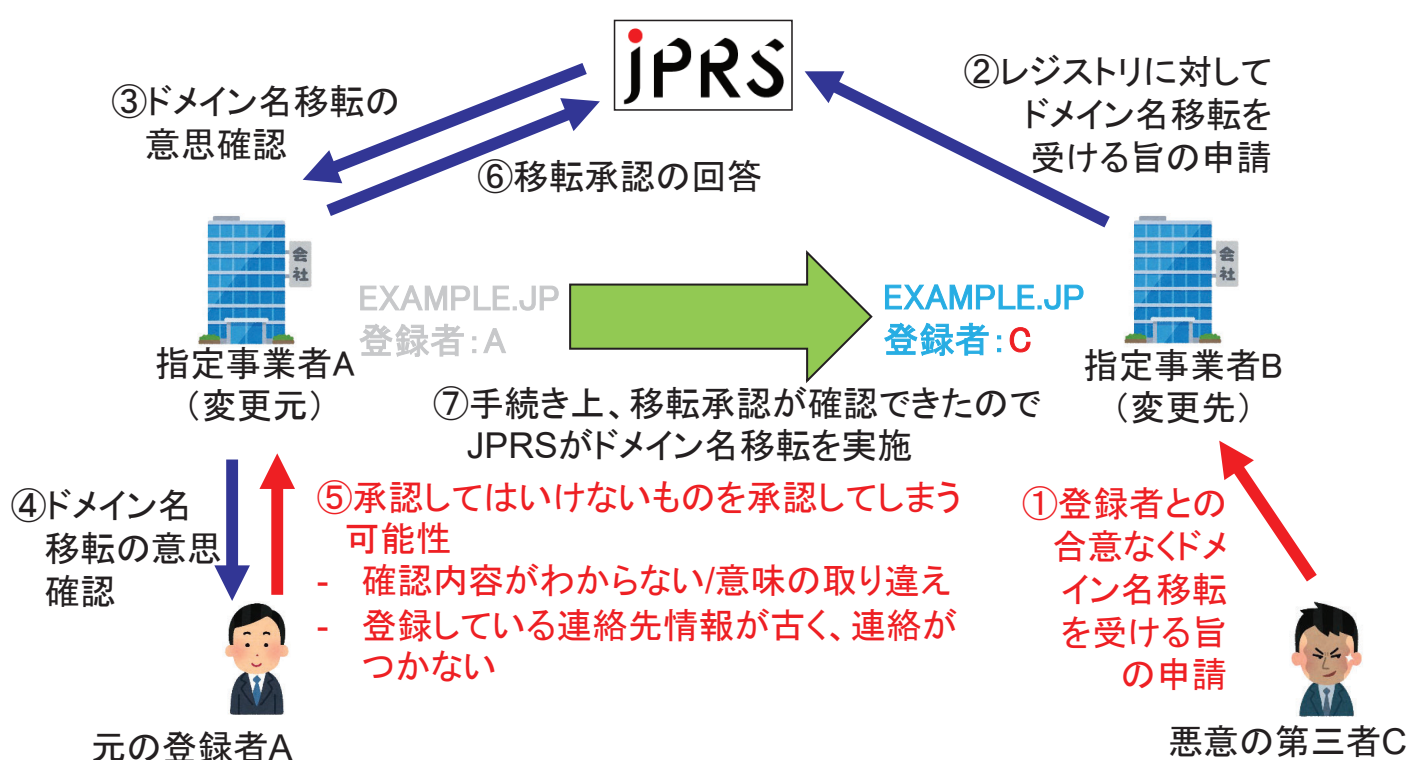
# 課題

- 最初の①が真に登録者の意思に基づいた申請か否かの確認が変更先の指定事業者の努力に依存
- ①の申請に悪意や誤りが混入した場合、④の意思確認で不承認とされることが期待されるが、意思確認にも誤りや齟齬のリスクはある

結果、登録者の意図しない指定事業者変更やドメイン名移転が発生してしまうリスクが存在

→ 指定事業者の努力、登録者の注意によってリスクを抑えてきたが、2019年4月に事故が発生  
(第65回JPDドメイン名諮問委員会にて報告)

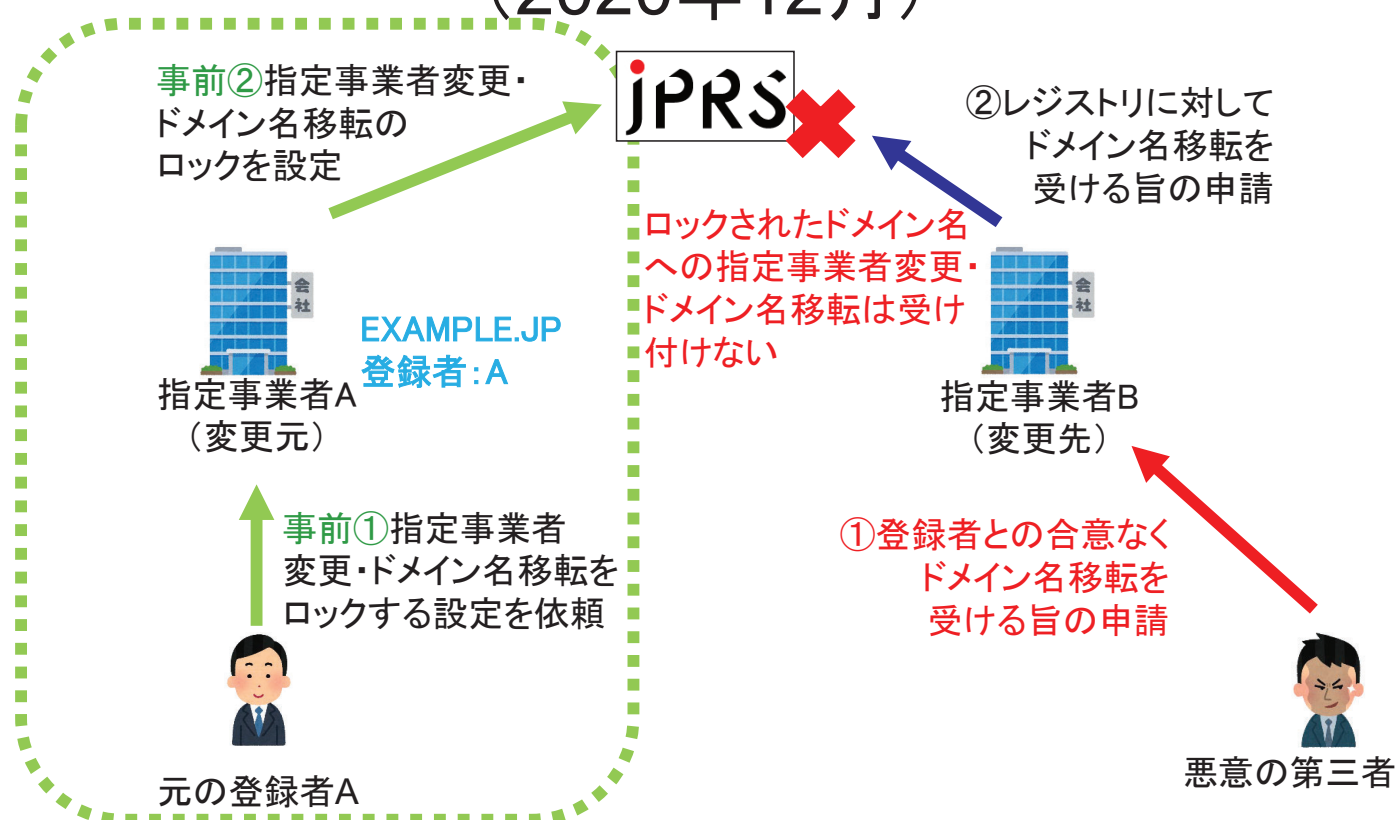
## 登録者の意図しない移転



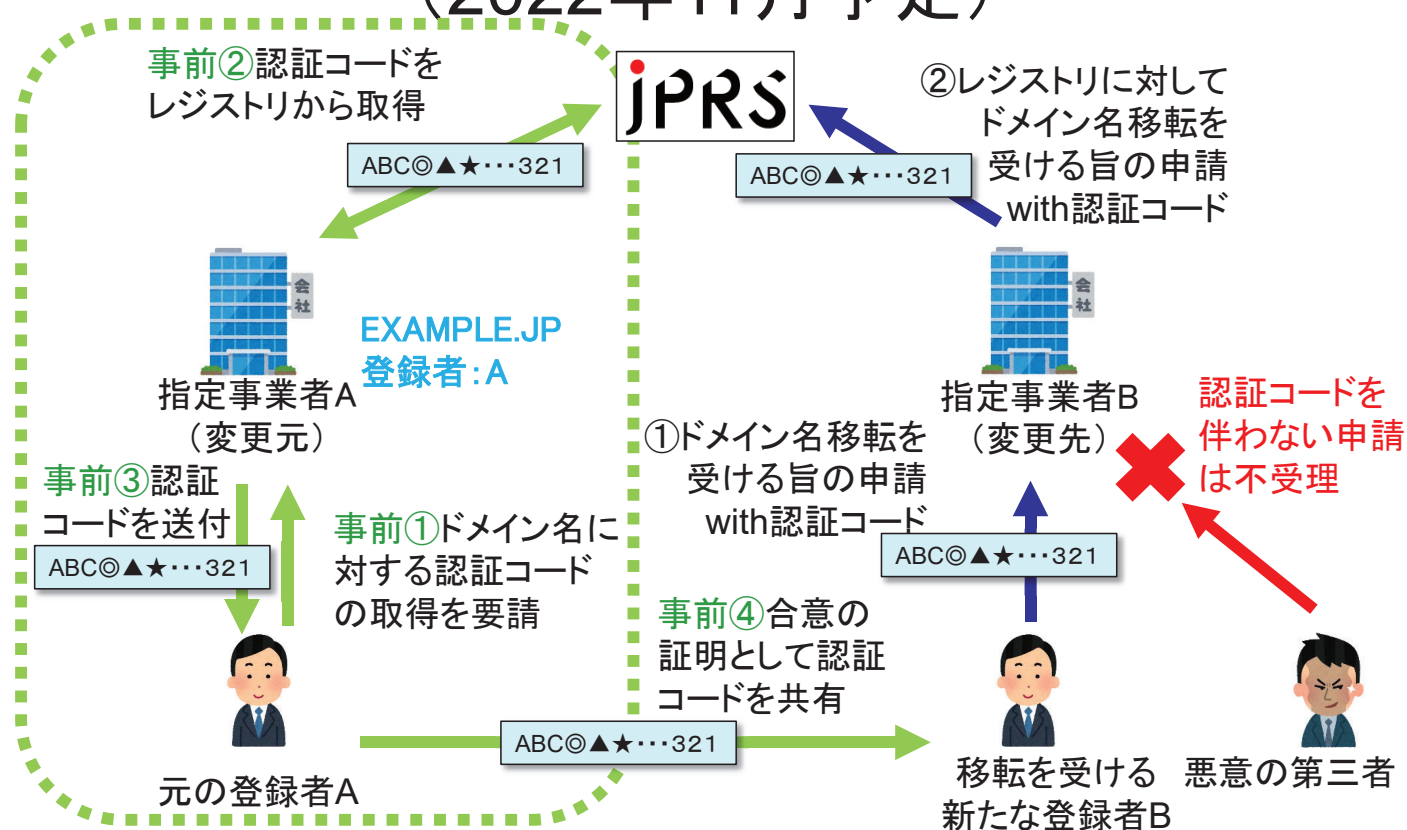
# 安全性向上のための取り組み

- 登録者に向けて
  - 指定事業者変更・ドメイン名移転という手続きと、そこでの意思確認の重要性について周知・啓発(2019年9月～)
- 指定事業者に向けて
  - 登録者に対する意思確認を、暗黙の承認ではなく、明示的な承認手続きで行うよう要請(2019年9月)
- レジストリとしてのサービス改善
  - 指定事業者変更・ドメイン名移転を受け付けないようにするロック手続きの導入(2020年12月)
  - 意図しない申請を発生させないための認証コードの導入(2022年11月予定)

## ロック手続きの導入 (2020年12月)



# 認証コードの導入 (2022年11月予定)



Copyright © 2022 株式会社日本レジストリサービス

9

## 今後の取り組み

- ロック手続きと認証コードが有効に機能するためには、登録者が正しい理解の下で手続きを行うことが必要
  - ロック手続きの存在を知らなかったり、認証コードを悪意の第三者に誤って渡してしまったりすることのないよう
- レジストリとして手続きの実装・導入で安心することなく周知・啓発活動を続け、問題が発生しないようリスクの低減に努めることが大切

